【様式１】　　平成２８年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

<table>
<tr><td>市町村名</td><td>郡上市</td><td>学 校 名</td><td colspan="4">岐阜県立郡上特別支援学校　高等部</td></tr>
<tr><td>校 長 名</td><td>山内　明志</td><td>対象学年</td><td>全校（高）</td><td>人 数</td><td colspan="2">18　　人</td></tr>
<tr><td>活 動 名</td><td colspan="2">和太鼓の継承</td><td>時間数</td><td>16　　時間</td><td>継続年数</td><td>8　　年</td></tr>
<tr><td>題　材</td><td colspan="6">１ 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他）［　　］
２ 歴史（出来事・史跡・先人・その他）　　［　　］
３ 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他）　［ 地域の太鼓演奏の継承 ］
４ 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他）［　　］
５ 地域との積極的な関わりをつくる活動等　　［　　］
６ その他（　　）　［　　］</td></tr>
<tr><td>複数年継続するための工夫改善</td><td colspan="6">高等部の那比校舎移転の平成21年から取組みを開始し8年目を向かえた。毎年の学校祭のオープニングでの演奏、昨年は「10周年記念式典」のセレモニーとして、本年度は「岐阜県公立幼稚園研究大会及び総会」での披露など、校内外での発表の機会を継続することで、生徒の意欲を掻き立てながら取り組んできた。また、地域の太鼓保存会の方々の継続した指導・アドバイスを受けながら練習に取り組むことで、年々技術の向上が見られる。</td></tr>
</table>

１ ねらい

・和太鼓の演奏を通して、日本古来の伝統音楽に直接触れることで、日本の伝統的な音楽や芸能などを身近に感じ、親しみを持つことができる。

・生徒一人一人がそれぞれ自分のパートを担当し、仲間と協力して曲を演奏することで、演奏後の達成感や成就感をみんなと一緒に分かち合うことができる。

２ 活動の概要

・バチの持ち方や構え方など、基本的な奏法を確認し、正しい奏法で演奏できるよう練習する。
・研究大会や学校祭で演奏する曲を、個人練習・パート練習・団体練習と段階を踏まえて行う。
・地域の「美坂太鼓」活動グループの方を講師に招聘し、細部まで指導・助言を受け練習する。

３ 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

本年度、市内（大和町）で開催された「岐阜県公立幼稚園研究大会及び総会」の昼食時のアトラクションとして発表の機会をいただき、高等部生徒全員で元気よく演奏できた。

高等部学校祭に、たくさんの地域の方々をお招きし、オープニングセレモニーで和太鼓の演奏を鑑賞していただき、称賛の声をいただく事ができた。

４ 活動を通しての生徒の変容

和太鼓の演奏は、取組み始めた8年前から、演奏する生徒は毎年入れ替わるものの、卒業生から在校生へ、先輩から後輩へと年々引き継がれ、今では高等部の伝統になりつつある。

高等部に来て初めて和太鼓を叩く生徒も多く、最初の叩き方はどこかぎこちなく、バチを落としてしまうことも度々である。そんな時、先輩が優しく後輩にアドバイスし、それを聞いた後輩は安心して頷き、太鼓練習を再開する。そんな風景が高等部が取組む和太鼓演奏の象徴でもある。

リズムに合わせた演奏では、一つの太鼓を複数の生徒で同時に叩くことが多くある。お互いにバチをぶつけずテンポよく太鼓を叩く姿は、まさに練習の成果の現れであり、生徒同士の阿吽の呼吸と言える。そんな、漲る自信にあふれた生徒の姿が見られる和太鼓の取組みである。